

認知症者の在宅生活を維持する非訪問型の生活評価・介入システムの標準化に関する研究
－離島僻地を抱える鹿児島県について

研究分担者：中村 雅之 国立大学法人鹿児島大学 学術研究院医歯学域医学系 教授
（研究協力者：福原竜治 国立大学法人鹿児島大学 医歯学域鹿児島大学病院 講師）
（研究協力者：石塚貴周 国立大学法人鹿児島大学 医歯学域鹿児島大学病院 助教）
（研究協力者：崎元仁志 国立大学法人鹿児島大学 医歯学域鹿児島大学病院 助教）
（研究協力者：松本一記 国立大学法人鹿児島大学 医歯学域鹿児島大学病院 講師）

研究要旨：認知症患者は、認知機能の低下に伴い、生活障害を呈しており、居住空間の構造的な介入が有用なことがある。従来は訪問看護などで実際に居住地に赴くことにより評価していたが、訪問スタッフなどの人的資源の問題、COVID-19 の問題や、鹿児島県では離島や僻地の問題により、直接の訪問が困難なことが多い。患者家族によって撮影された写真をアセスメントすることにより、適切な生活指導に繋がる可能性を検討するため、一定のマニュアルや評価項目を元に撮影された写真を用いて後方視的にフォトアセスメントのシュミレーションを行ったところ、多くの情報を得ることができ、問題点を抽出することができた。一方、評価困難な項目もあり、今後の改善を検討している。また、物盗られ妄想をもつ患者宅のアセスメントにより妄想の改善が得られた。今後、症例を増やし、更なる研究を行う予定である。

A. 研究目的

認知症患者は、認知機能の低下に伴い、生活障害を呈している。認知症患者の実際の生活の場における構造的な問題点については、多職種協働で訪問看護などによる介入によって生活指導などを通して改善を図ってきた。しかし、従来から鹿児島県においては離島や僻地に居住する患者への対応は困難であった。また、全国的にも COVID-19 の蔓延によって訪問などによる介入が益々困難になった。本研究により、効果的な写真や動画を活用した非訪問型の生活評価システムの開発がなされると、これら対応困難な事例についても介入効果が期待できると考えている。今年度は、後方視的に患者宅の評価項目について検討を行った。また、予備的に実際に介入した事例についてその効果

を検討した。

B. 研究方法

実際に介入を行い患者プロフィールが判明している行動障害型前頭側型認知症症例の自宅写真を用いて後方視的に客観評価を行った。自宅写真は、外観、玄関、居間・ダイニング、台所など 20 箇所について 59 枚の写真を用いた。これら写真を元に、玄関のアクセス、食事環境、就寝環境など 12 項目について評価を行った。

また、物盗られ妄想を呈したアルツハイマー型認知症の症例に対し、自宅居室のフォトアセスメントを行った。

（倫理面への配慮）

本研究は大阪大学医学部附属病院倫理委員会の承認を得て行っている。症例に関し

ては、本人家族から同意を得て行っており、発表に関しては匿名化し個人が特定されないよう配慮した。

C. 研究結果

フォトアセスメントのシュミレーションにおいては、生活の様子や階段昇降、冷蔵庫内の物品の溜め込みなどの問題点が浮かび上がり、介入のポイントと考えられた。一方、玄関の施錠の様子や居間における患者の居場所、書類の保管場所、薬の置き場所、本人の衣類の置き場所、照明や冷暖房設備、洗面や入浴における患者の使用品の置き場所など写真からは判断できない項目もあり、今後の写真撮影方法に改善の余地があった。

予備的な症例介入においては、患者宅は棚や引き出しが多く、探し物が増える要因と考えられ、ネームプレートの設置や貴重品の保管場所の固定などの指導により、物盗られ妄想は軽快した。

D. 考察

フォトアセスメントにより、実際に患者宅に訪問せずとも、多くの生活情報が得られ、生活指導に有用であることが示唆された。一方、今回の写真では評価できない項目もあり、今後の改善が期待される。また、実際に物盗られ妄想が活発であった患者自宅のフォトアセスメントによって、妄想の軽減に繋げることができており、患者家族間の関係改善が得られており、無用な薬物療法の防止にも役立つことが示唆された。患者家族の撮影した写真を評価するため、医療従事者のマンパワー不足を補える可能性も示唆された。今後は症例を増やし、整備されたマニュアルを用いた写真撮影による実際の介入研究を行う。

E. 結論

フォトアセスメントにより、患者居住環境における多くの情報を得ることができ、生活指導に役立てることができる可能性がある。今後は症例を増やし、研究を展開する。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1. 迫はるか, 浦田結嘉, 福原竜治, 石塚貴周, 中村雅之: フォトアセスメントが物盗られ妄想に有効であったアルツハイマー型認知症の一例 第107回鹿児島精神神経学会、2022年12月 鹿児島市

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記なし